

## 平成28年度 学校自己評価のまとめ

回収総数17名（職員 6名 こども環境科 6名 介護環境科 5名）

### 1 教育理念・目標

		4	3	2	1	領域平均	総平均
学校の理念・目的・育成人材像	職	3	3	0	0	3.5	3.5
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	3	1	1	0	3.4	
職業教育の明確化	職	3	1	2	0	3.2	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	2	3	0	0	3.4	
学校の将来構想	職	3	2	1	0	3.3	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	3	1	0	3.0	
学生・保護者への周知	職	1	3	2	0	2.8	2.9
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	3	1	0	3.0	
業界のニーズに向けての方向づけ	職	3	1	2	0	3.2	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	3	2	0	0	3.6	

#### 自由記述

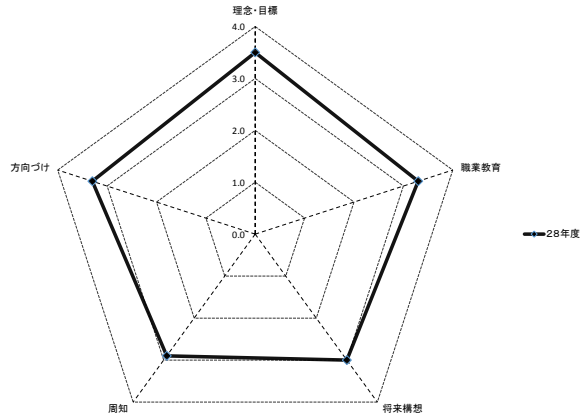
●今年度は学校広報誌で教育理念と教育方針を組み掲載したが、教育方針の文章を一部削愛したために読者には学校側の意図が十分には伝わっていないと考える。次年度の学校案内などを作成する際には意図・目的をしっかりと明記し、分かりやすい文章表現で伝えていくことが大切である。

#### 評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎学校の将来構想が教職員に十分理解されていないので、会議や研修で共有する必要がある。

◎学生にはガイダンス、保護者に懇談会や入学後の説明会を行っているが、教育理念や目標をわかりやすく伝えていないため工夫の必要がある。

### 28年度



### 2 学校運営

		4	3	2	1	領域平均	総平均
目的に沿った運営方針	職	3	1	1	0	3.4	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	2	3	0	0	3.4	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	2	3	0	0	3.4	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	0	3	2	0	2.6	2.8
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	1	4	0	0	3.2	
人事・給与の規定の整備	職	0	5	0	0	3.0	3.0
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	4	0	0	3.2	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	0	4	1	0	2.8	2.7
	こ	0	1	4	1	2.0	
	介	1	4	0	0	3.2	
業界・地域社会に対するコンプライアンス整備	職	0	5	0	0	3.0	3.2
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	4	0	0	3.2	
教育活動における情報公開	職	3	2	0	0	3.6	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	3	2	0	0	3.6	
業務の効率化	職	0	5	0	0	3.0	2.9
	こ	1	1	4	0	2.5	
	介	1	4	0	0	3.2	

#### 自由記述

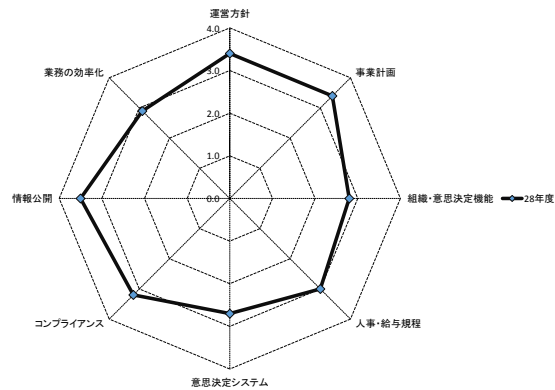
●教育活動の情報公開については、今後ホームページの動画配信などを加え、さらに改善の余地があると考える

#### 評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎人事・給与の規定の整備と教務・財務など組織整備など意思決定システムの整備について評価が低く、整備を急ぐ必要がある。

◎業務の効率化は昨年度と同様低い評価であり、具体策をまとめる必要がある。

### 28年度



3 教育活動

(1) 教育課程

		4	3	2	1	領域平均	総平均	
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針の策定	職	4	1	0	0	3.8	3.4	
	こ	3	2	1	0	3.3		
	介	1	4	0	0	3.2		
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に合わせた教育到達レベルや学習時間の確保	職	3	2	0	0	3.6	3.1	
	こ	2	2	2	0	3.0		
	介	1	2	2	0	2.8		
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	2	2	1	0	3.2	3.2	
	こ	1	5	0	0	3.2		
	介	2	2	1	0	3.2		
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	4	1	0	0	3.8	3.5	
	こ	2	3	1	0	3.2		
	介	3	2	0	0	3.6		
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	2	3	0	0	3.4	3.4	
	こ	2	3	1	0	3.2		
	介	3	2	0	0	3.6		
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	2	0	0	3.6	3.6	
	こ	4	2	0	0	3.7		
	介	2	3	0	0	3.4		

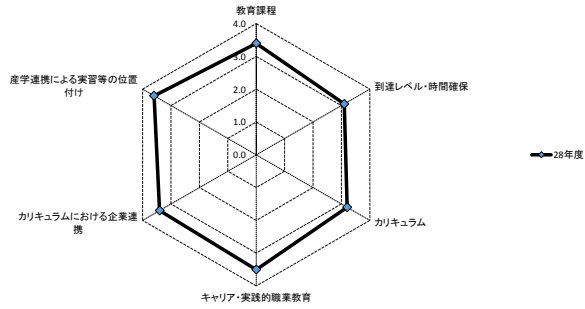
・自由記述

- 時代の変遷により学生の質も変化してきている。そのことを踏まえ、現場実践で直接活かせる技術面も強化。更に増えた対応や応用力を如何に身につけていくのか、教員力量に開いていく事も大きいと思う。専門学校ならではの実践力と即戦力を備えた人材育成が今後の学校存続の鍵となってくるのでは。
  - 未進的な知識・技術の向上に、人と関わる職業に就く者にとって根本となる基本的な礎しや思いやりといった内面的な人間力を積極的に育成していくことの大切さを感じる。
  - 教育課程の見直しの必要性があるのでは
  - 学科内でカリキュラム及び学習時間の配分をしっかりと検討していく必要性
  - 二年間の過程で伸びる学生と変わらない学生がいる。本校の特色の個別支援の充実と到達目標を示し、より効果的な教育方法の工夫が求められる。
  - 教育課程の編成・実施方針等の策定が不十分
  - 学習時間の確保が不十分
  - 教育方法の工夫がしにくい教室環境、授業研究時間の不足
- 教育課程委員会の設置、ゆとりある時間割(空きコマを作らないという方針の見直し)、ICTが利用出来る教室環境の改善、教員の担当授業時数を減らし研究時間を増やす

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎おおむね評価は良好だが、個々の具体的な問題を感じている教員が多いことが自由記述から読み取れる。こうした意見をくみ取り、具体的な実践や教育課程に反映させていきたい。

28年度



28年度

(2) 指導・評価

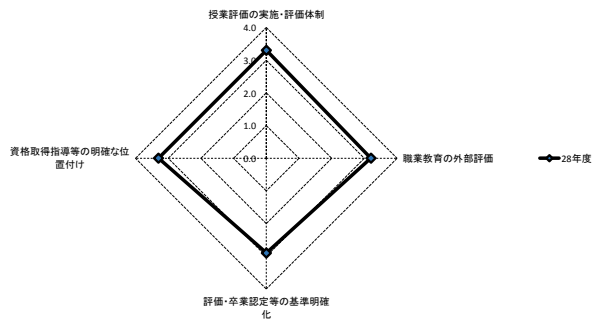
		4	3	2	1	平均	総平均	
授業評価の実施・評価体制	職	3	2	0	0	3.6	3.3	
	こ	1	5	0	0	3.2		
	介	0	5	0	0	3.0		
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	2	3	0	0	3.4	3.2	
	こ	2	4	0	0	3.3		
	介	0	4	1	0	2.8		
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	1	3	1	0	3.0	2.9	
	こ	0	4	2	0	2.7		
	介	1	3	1	0	3.0		
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	3	2	0	0	3.6	3.3	
	こ	0	6	0	0	3.0		
	介	2	3	0	0	3.4		

・自由記述

- 授業評価が本校の教育のあり方を必ずしも反映していない。
- 授業評価表が教員にとってもわかりにくい。
- 授業アンケートの見直し
- 教育課程表の修正
- 各科目、各実習施設に任せている評価基準の統一が必要

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化について問題を感じている教員が多数いる。このため校内にプロジェクトを設置して学生が不利にならないように不公平感をもたないような基準作りを進めたい。



(3) 教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	2	2	1	0	3.2	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	3	1	0	3.0	
関連分野の業界などとの連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	0	4	1	0	2.8	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	2	3	0	0	3.4	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	0	5	0	0	3.0	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	3	0	0	3.3	
教員の能力開発のための研修	職	1	3	1	0	3.0	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	4	0	0	3.2	

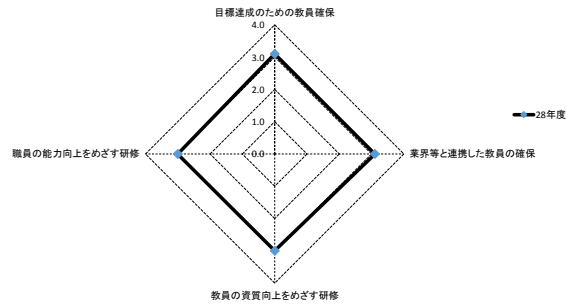
・自由記述

- 各教員の専門分野の研修は行われているが、職業教育に特化した先進的な知識・技能を習得するための研修は遅れている。
- 教員の補充がうまくできていない
- 北等各連の研修、法人研修以外の研修が受けづらい
- 聞いてみたいと思えるような環境をつくる。例えば自己研修の奨励、時間の確保
- 常勤の先生は授業や実習、就職などの学生支援と教務や委員会など分掌とで手一杯で他の事、あたらしい事が出来ない状態なので、常勤の教員の補充と事務員の補充が必要
- 常勤の教員の補充と事務員の補充が必要
- 研修は行われているが、能力開発のためには無いような気がする
- 限られた教員・スタッフの中で効果的な運営がなされているが、もう1割方の増員があれば、更に効果が発揮・定着できると思われる。

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎研修については、関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み、教員の能力開発のための研修などについても環境科教員の評価がやや低い。今後、各企業や職域団体との連携を密にして、教職員が求める研修計画を立てていきたい。

28年度



4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	4	1	0	0	3.8	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	2	3	0	0	3.4	
資格取得率の向上	職	2	2	1	0	3.2	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	2	3	0	0	3.4	
退学率の軽減	職	0	4	1	0	2.8	3.1
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	4	0	0	3.2	
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	3	2	0	0	3.6	3.2
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	2	3	0	0	3.4	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	2	2	1	0	3.2	3.0
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	1	4	0	0	3.2	

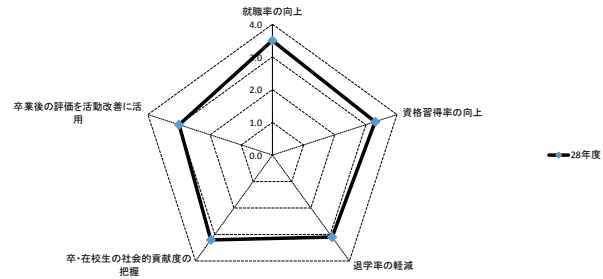
・自由記述

- 入学時から卒業までのキャリア形成過程を体系化して、卒業生・在校生の社会的活躍や評価を把握していくことが不足している。
- 学校祭以外に卒業生がきてみたいと思える日をつくる
- 就職ガイダンスへの卒業生の参加を促す
- 幼稚園免許更新講習の実施

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎退学率については、教員以外の職員からみて問題を感じている。そのため、免許・資格の取得を卒業要件からはずし、多様な進路選択ができるように配慮している。  
◎卒業生・在校生の社会的活躍、評価の把握と卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用についても環境科教員の評価がやや低い。これは比較的在職期間が短い先生が多く、卒業生の動向について情報が少ないためと思われる。そのため、介護環境科の先生や事務職員と連携が必要と考える。

28年度



5 学生支援

(1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	4	1	0	0	3.8	3.6
	こ	4	1	1	0	3.5	
	介	2	3	0	0	3.4	
学生相談に関する体制の整備	職	3	2	0	0	3.6	3.6
	こ	4	2	0	0	3.7	
	介	2	3	0	0	3.4	
学生に対する経済的支援体制の整備	職	2	2	1	0	3.2	3.2
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	4	0	0	3.2	
学生の健康管理を担う組織体制	職	1	3	1	0	3.0	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	2	3	0	0	3.4	
課外活動に対する支援体制	職	0	5	0	0	3.0	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	2	3	0	0	3.4	
学生に生活環境への支援	職	2	2	1	0	3.2	3.0
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	1	3	1	0	3.0	

・自由記述

●学生同士で環境できる場の確保、心身の体調不良に対して気軽に相談できる支援体制の強化。大学では得難い温かいアットホーム的な環境整備、学生生活全般をサポートできる体制を整備・改善すべき。

○生活環境としての学生ホール、図書館等の整備が必要と思う。

●就職に関する支援が各教員の個人的資質に負うところが大きい

●学生の生活環境への支援は家庭との協力が無いと難しい

○就職に関する組織をつくる

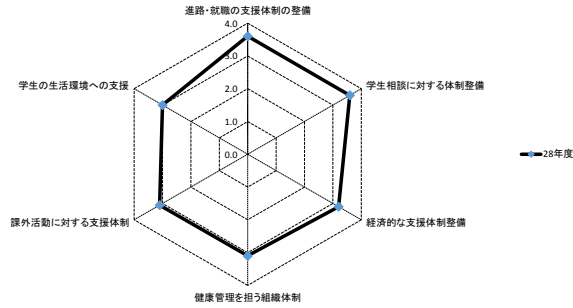
○保護者会を作る

●卒業生への支援や在校生への学業以外の支援の不足

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎学生の生活環境については、問題を感じている教員が多い。図書館の解放などできる範囲から取り組んでいきたい。

28年度



(2) 連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	3	1	1	0	3.4	3.4
	こ	3	2	1	0	3.3	
	介	2	3	0	0	3.4	
卒業生への支援体制	職	2	2	1	0	3.2	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	4	0	0	3.2	
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	2	2	1	0	3.2	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	1	4	0	0	3.2	
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	2	3	0	0	3.4	3.4
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	4	0	0	3.2	

・自由記述

●高校訪問時のツールとして専門教科の出前授業一覧表を作成予定。キャリア・職業教育の窓口として、多くの高校に利用して頂ける様働きかけていく。

○社会人のニーズを踏まえた教育環境は、課題が多いと推測される。一度彼らのニーズの聞き取りをしてみても良いのではないかと。

●保護者との連携はおこなっているが、地方在住の保護者の場合、学校に来ていただけないこともある。

●卒業生への支援も各教員によって異なる

●教育環境の不備

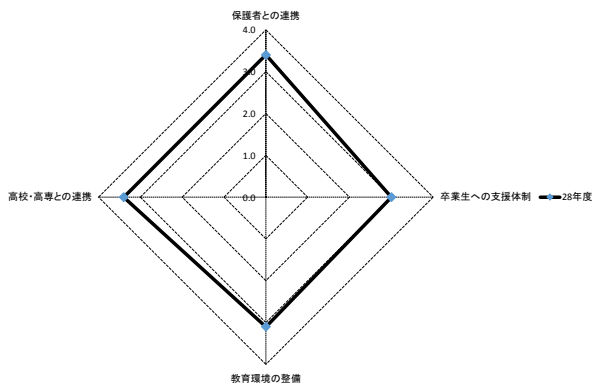
○地方在住の学生が多い現状を踏まえ、半期に1回学生の様子を知らせる

○就職に関する組織が卒業生も支援する

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎卒業生との連携については、どうしても在職期間の長い先生に隔りがらである。同窓会や保育・介護・メンタなど組織的な取り組みが必要であろう。また、社会人のニーズの聞き取りも必要と思う。

28年度



6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	職	0	4	1	0	2.8	2.5
	こ	0	1	4	1	2.0	
	介	0	3	2	0	2.6	
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	職	2	3	0	0	3.4	3.3
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	2	3	0	0	3.4	
インターシップ、海外研修等について体制の整備	職	0	4	1	0	2.8	2.7
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	1	1	2.4	
防災に対する体制の整備	職	1	3	0	1	2.8	2.6
	こ	0	3	2	1	2.3	
	介	0	4	1	0	2.8	

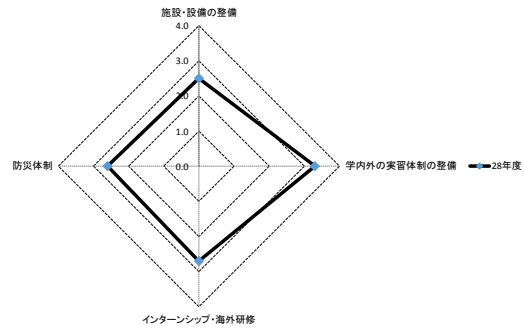
・自己記述

- 校内放送設備の見直しが必要。
- 防災体制の見直しが必要
- 施設・設備において老朽化した校舎であっても授業に支障をきたさない様に改善を引き続き行っていく必要がある。
- 修繕の済んだ施設はしっかりと管理し、老朽化した教室等は随時修繕を行っていく。
- 雨漏りや天井などの復旧が望まれる
- 学生募集活動において、短大との違いが明確に出せていない。
- 短大と異なる特色を発信する
- 効率的な講義のための講義室の充実(AV機器の常設など)

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎教育環境については、実習施設以外についてはおおむね低い評価となった。校舎の老朽化によるためだが、修繕・改築などを進めて学生が学び生活しやすい学校環境を少しずつ進めていきたい。

28年度



7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動が適正に行われている。	職	2	2	1	0	3.2	3.3
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	4	0	0	3.2	
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	職	2	3	0	0	3.4	3.1
	こ	2	2	2	0	3.0	
	介	0	5	0	0	3.0	
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	職	2	2	1	0	3.2	3.1
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	0	5	0	0	3.0	
学納金が妥当なものになっている。	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	4	0	0	3.2	

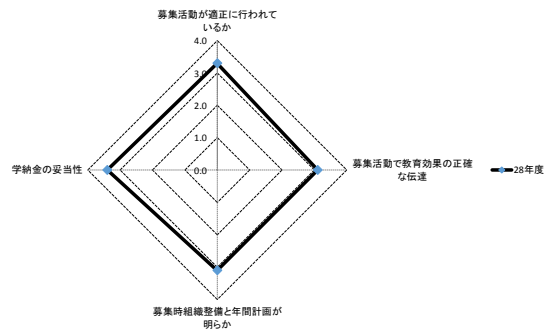
・自己記述

- 定員に対する募集人員が低下、学生募集に関しては学校の良さを明確に伝えきれていないため伸び悩んでいる。大学や短大も定員割れの時代に専門学校が生き残っていくためには、それを上回る大きな特徴と教育的な評価や質向が必須と考える。それを如何に伝えていくかが課題。
- 学生の生の声は、多大な影響力を持つので、それらを良い方向で活用していく。
- ウェブ時代に向け、ホームページの更新・発進力の強化及び動画の活用が肝要である。

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎募集活動において教育効果が正確に伝えられている、と感じていない教員がやや多い。このため、教員と広報・事務・管理職との連携をさらに推し進めたい。

28年度



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	職	0	4	0	1	2.6	2.6
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	4	1	0	2.8	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	職	0	4	1	0	2.8	2.8
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	4	1	0	2.8	
財政について会計監査が適正に行われている。	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	4	0	0	3.2	
財務情報公開の整備はできている。	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	3	1	0	3.0	

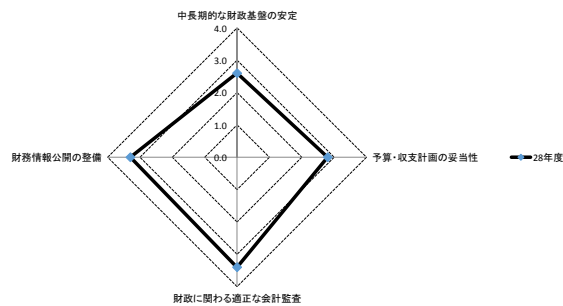
・自己記述

- 予算や決算についての説明が欲しい
- 人件費を削減しており、財政基盤への不安がある

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎財政基盤・予算の収支計画について評価がやや低い。このため、現場の声を反映させたいとともに、法人側からも説明をお願いしたい。

28年度



9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	職	3	1	1	0	3.4	3.3
	こ	2	3	0	1	3.0	
	介	2	3	0	0	3.4	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	職	2	3	0	0	3.4	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	3	2	0	0	3.6	
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	職	2	3	0	0	3.4	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	4	1	0	2.8	
自己評価結果の公開	職	2	3	0	0	3.4	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	4	1	0	2.8	

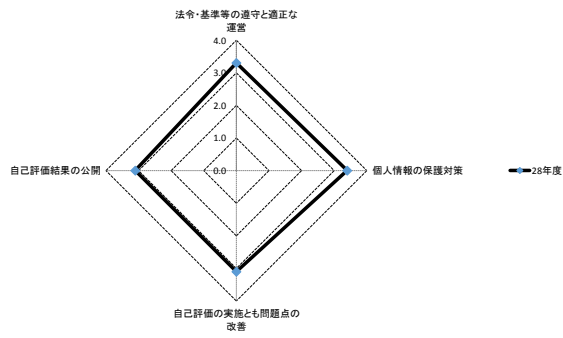
・自由記述

- 個人情報の管理規定を策定した方が良いと思う
- 自己評価で問題点や改善点を指摘してもなかなか改善されない
- 社労士の助言が必要
- 辛口の評価であっても真摯に受け止める姿勢をもつ

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎自己評価の実施と問題点の改善 並びに自己評価結果の公開について、介護環境科の教員の評価がやや低い。このため、自己評価項目の見直し、結果だけでなく、課題と改善策を入れて改善した。

28年度



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	職	4	1	0	0	3.8	3.7
	こ	5	1	0	0	3.8	
	介	3	2	0	0	3.6	
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	職	4	1	0	0	3.8	3.8
	こ	5	1	0	0	3.8	
	介	4	1	0	0	3.8	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	職	4	1	0	0	3.8	3.9
	こ	6	0	0	0	4.0	
	介	4	1	0	0	3.8	
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	職	4	1	0	0	3.8	3.9
	こ	6	0	0	0	4.0	
	介	4	1	0	0	3.8	

・自由記述

- ボランティアを行う学生が限られている ● 業務の明確化
- 学生負担金の明瞭化 ● ボランティアスタッフの活用

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

◎社会貢献・地域貢献は評価が高い。今後も社会のニーズにあわせて推進していきたい。

28年度

